

永瀬清子の宮沢賢治受容史年譜

白根直子

凡例

1. 本年譜は、永瀬清子の宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）、永瀬清子の宮沢賢治に関する活動等、永瀬清子が著作に引用または言及した宮沢賢治の作品、永瀬清子が著作に引用した文献、永瀬清子の宮沢賢治に関する著作ならびに活動等に対する言及のある文献、宮沢賢治研究史によって構成される。
2. 第一列から第三列までは、永瀬清子の宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）について、年月日、書誌名、題名の順に記載する。
 - 1) 第一列の年月日は、永瀬清子の宮沢賢治に関する著作が発表された日付のみではなく、第四列、第七列、第八列の事項に関する日付もここに記載した。発行年月日は奥付もしくは表紙に拠った。日にちが不明なものは、その月の最終行に記載した。
 - 2) 第二列の書誌名は、全集・単行本は『 』、雑誌・新聞等に掲載された作品及び論文は「 」で示した。巻号は漢数字に統一し、旧漢字は新漢字に改めた。本年譜の書誌名の表記は、すべてこれによる。永瀬清子の蔵書には*印を付したが、版を重ねている書籍については初版の発行年月日を（ ）内に記載した。
 - 3) 第三列の題名は、副題まで記載した。なお末尾に付した丸付き数字については、3の1)に拠る。不明あるいは無題、小題がない場合、便宜上第一行を〔 〕で括ったものをもって、題名の代用と

する。第一行末尾に句点が付されているものは代用題名から句点はずすことにした。

3. 第四列は、永瀬清子の宮沢賢治に関する活動等を記載する。
 - 1) 丸付き数字は、当該活動について言及した著作の題名（第三列）の末尾に付し対応関係を明らかにした。
 - 2) 著作が初出の場合、その旨表示した。
 - 3) 掲載紙誌に原稿の完成年月日と思われる日付があるものは、その日付を第一列に、題名を第三列に記したうえで、その旨表示した。
 - 4) 第一列から第三列について説明が必要な場合に記載した。
4. 第五列は、永瀬清子が著作に引用または言及した宮沢賢治の作品を記載する。
 - 1) 作品名は初出の時点で記載し、詩、童話、歌曲等の形式ごとに／で区切った。さらに詩については、所収している詩集等を記載した。その場合、永瀬清子自身の記述があるものはそれに従い、記述がないものは、『新校本宮沢賢治全集』に拠った。両者の区別のために調査の上記載した場合は※印を付した。

題名を調査の上記載した場合は、その題名の前に※印を付した。
例：詩※「牧場地方の春の歌」（補遺詩編Ⅰ）

所収している詩集等のみ調査の上記載した場合は、（ ）内に所収詩集等を記載の上末尾に※印を付した。
例：詩「雨ニモマケズ」（補遺詩編Ⅱ※）
 - 2) 具体的に言及しておらず題名のみあげた作品も含めた。
 - 3) 同じ詩集や手帳類から、複数にわたり引用または言及している場合は、それらの最後に所収詩集等を（ ）内に記載し／で区切った。
5. 第六列は、永瀬清子が著作に引用した文献を記載する。
 - 1) 引用した文献が永瀬清子の著作と同じ発行年月日の場合は、区別

のため永瀬清子の著作の下段に記載した。

- 2) 引用した文献が複数にわたる場合は／で区切った。
- 3) 永瀬清子が具体的に書名、題名をあげている文献、引用箇所により論拠が特定できる文献はそれに従い、著者、文献名ともに調査したものは著者名の前に※印を付した。

例：※佐藤隆房「絵画への一考察」

また文献名のみ調査したものは文献名の前に※印を付した。

例：佐藤泰正※「宮沢賢治とレコード (一)」

6. 第七列は、永瀬清子の宮沢賢治に関する著作ならびに活動等に対し言及のある文献を記載する。
7. 第八列と第九列は、宮沢賢治研究史を記載する。
 - 1) 第八列は「雨ニモマケズ」に関連する主な文献、宮沢賢治研究誌等、永瀬清子の宮沢賢治に関する蔵書、宮沢賢治に関する行事等を記載した。複数にわたる場合は／で区切った。なお、ここには永瀬清子の著作としてあげた文献は記載していない。
 - 2) 永瀬清子の宮沢賢治に関する蔵書には*印を付したが、繁雑になるため2の2)にあげた永瀬清子の著作以外に付した。発行年月日についても2の2)に準ずる。
 - 3) 第九列は萬田務の「研究史」(「宮沢賢治必携」一九八〇年五月学燈社)の分類に従った。偶数の期について背景に色をつけ、期の変わり目をわかりやすくすることを目指した。

【参考文献】

- 草野心平 『宮沢賢治覚書』(一九五一年一月 創元社)
佐藤泰平編 「宮沢賢治必携」(一九八〇年五月 学燈社)
小倉豊文 『宮沢賢治声聞縁覚録』(一九八〇年六月 文泉堂出版)
小倉豊文編 『宮沢賢治初期研究資料集成』
(一九八七年一月 国書刊行会)

続橋達雄編 『宮沢賢治研究資料集成』

(一九九〇年六月・一九九二年二月 日本図書センター)

『宮沢賢治作品・研究・図書資料目録』

(一九九四年三月 宮沢賢治イーハトーブ館)

『新校本宮沢賢治全集』

(一九九五年五月～二〇〇一年一月 筑摩書房)

宮沢賢治学会イーハトーブセンター図録編集委員会編

『宮沢賢治生誕百年記念特別企画展図録』

(一九九七年八月 宮沢賢治イーハトーブ館)

原子朗 『新宮沢賢治語彙辞典』(一九九九年七月 東京書籍)

熊山町編 『永瀬清子の生涯』(一九九八年三月 熊山町)

熊山町教育委員会編 『永瀬清子資料目録—雑誌—』

(二〇〇一年二月 熊山町教育委員会)

熊山町教育委員会編 『永瀬清子資料目録—図書—』

(二〇〇二年三月 熊山町教育委員会)

小田切進編 『現代日本文芸総覧』上中下巻補巻

(一九九二年一月・二月 明治文献)

現代詩誌総覧編集委員会編 『現代詩誌総覧』全七巻

(一九九六年七月～一九九八年一月 日外アソシエーツ)

宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）			宮 沢 賢 治 に 関 する 活 動 等	著作に引用または言及 した宮沢賢治の作品	著作に引用した文献	永 瀬 清 子 へ の 言 及 の ある 文 献	宮 沢 賢 治 研 究 史
年月日	書 誌 名	題 名					
1924.4.20							宮沢賢治『春と修羅』 関根書店 *
1931.7.1							草野心平「宮沢賢治論」 〔詩神〕第七巻第五号〕
1932.7以前			①草野心平から「春と修羅」を渡され、初めて宮沢賢治の作品にふれる。				
1932.7	「五人」第八集（終刊号）	梢	初出				
1933.7.1					保田與重郎「文学時評」 〔コギト〕第一四号〕		
1933.8.1	「麵麴」第二巻第七号*	ノート	初出	「春と修羅」序／詩 「松の針」	草野心平「宮沢賢治論」 ／保田與重郎「文学時評」		
1933.10.1						保田與重郎「感想」 〔「麵麴」第二巻第一号〕	
1933.10.21							〔「宮沢賢治全集抜粋鏡をつるし」〕〔A〕 * 〔鏡をつるし〕〔B〕
1933.11.23							
1934.1.28	「宮沢賢治追悼」次郎社	宮沢賢治さんの空気	初出	「春と修羅」序／詩 「松の針」			
1934.2.16			②新宿「モナミ」で催された宮沢賢治追悼会に出席。「雨ニモマケズ手帳」発見				宮沢賢治追悼会・第一回宮沢賢治友の会（新宿モナミ）
1934.3.1	「麵麴」第三巻第三号*	文芸雑感	初出		「宮沢賢治追悼」		
1934.6.			③宮沢清六から「国訳妙法蓮華経」を贈られる。				
1934.8.1	「麵麴」第三巻第八号	随筆 宮沢氏について また ②③	④初出 詩「梢」を以前書いた詩として全文引用している。				
1934.8.21							第二回宮沢賢治友の会 （東京新宿江島屋支店）
1934.9.14	「岩手日報」	宮沢賢治氏の童話	初出				
1934.9.21	「岩手日報」	宮沢氏についてまた ④	「随筆 宮沢氏についてまた」を一部削除し掲載。				「岩手日報」学芸欄で特集「宮沢賢治氏逝いて一年」があり、詩「雨ニモマケズ」が「遺作（最後のノートから）」の題名で掲載
1934.10.25							「宮沢賢治全集」第三巻 文圃堂書店 *

第一期 十字屋書店版全集完結（1944年）まで

1935.1.1					永瀬清子「二つの型その他(十二月の詩壇)」 〔麵麴〕第四卷第一号		
1935.1.24							第三回宮沢賢治友の会 (新宿そばとろ)
1935.2.1	〔麵麴〕附録第三号	カリカチユア	初出				
1935.2.3		宮沢賢治の韻律 ②	本文末尾に記した年月日				
1935.2.12 ～2.14							谷川徹三「ある手紙」 (一)～(三)〔東京朝日新聞〕
1935.3.1	〔麵麴〕第四卷第三号	糸針抄 宮沢賢治に就いて	初出				
1935.4.20	〔宮沢賢治研究〕第一号	宮沢賢治の韻律 ②	初出	詩集「春と修羅」／詩「習作」「松の針」「原 体剣舞連」／詩「花鳥 図譜七月」(〔北上川は 焚気を流しイ〕改稿発 表形「春と修羅 第二 集」※)／童話「かし は林の一夜」「風の又 三郎」「蜘蛛となめく ちと狸」「北守將軍と 三人兄弟の医者」「セ ロ弾きのゴージュ」／ 歌曲「星めぐりの歌」 「ポラーノの広場」	文圃堂書店版「宮沢賢 治全集」第三卷／草野 心平「春と修羅」に おける雲／永瀬清子 「二つの型その他(十 二月の詩壇)」		〔宮沢賢治研究〕第一 号
1935.4.26							第四回宮沢賢治友の会 (新宿モナミ)
1935.6.1							〔宮沢賢治研究〕第二 号に「雨ニモマケズ」 が遺稿として初めて公 表される。童話「ひの きとひなげし」他掲載
1935.7.25							〔宮沢賢治全集〕第一 卷 文圃堂書店 * 第三卷再版
1935.8.25							〔宮沢賢治研究〕第三 号に評論「農民芸術概 論」掲載
1935.8.26 ～8.30						尾崎士郎「文芸時評」 (一)～(五)〔東京朝日新聞〕	
	〔婦人文芸〕第二卷第九号	文芸時評 *	初出	童話「銀河鉄道の夜」			
1935.9.1					〔横光利一文学談〕 (〔行動〕第三卷第九 号)／貴司山治「芸術 内の芸術大衆化論」 (〔文学評論〕第二卷第 一〇号)／河上徹太郎		

第一期 十字屋書店版全集完結(1944年)まで

宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）			宮 沢 賢 治 に 関 する 活 動 等	著作に引用または言及 した宮沢賢治の作品	著作に引用した文献	永 瀬 清 子 へ の 言 及 の ある 文 献	宮 沢 賢 治 研 究 史
年月日	書 誌 名	題 名					
					「感受性に就いて」 （『新潮』第三二巻第九号）／桑原武夫「富岡鉄斎展をみて」（『コギト』第四巻第九号）		
1935.9.20							『宮沢賢治全集』第二巻 文圃堂書店
1935.9.21			⑤日本青年館での第五回宮沢賢治の会に参加				第五回宮沢賢治友の会（日本青年館）
1935.10.1	「麵麴」第四巻第一〇号 *	文芸時評	初出	評論「農民芸術概論」	「宮沢賢治研究」第三号／尾崎士郎「文芸時評」（一）～（五）／横光利一「文学談」／貴司山治「芸術内の芸術大衆化論」／河上徹太郎「感受性に就いて」／桑原武夫「富岡鉄斎展をみて」		
1935.11.1							『宮沢賢治研究』第四号
1936.2.1	「麵麴」第五巻第二号	三四の詩集について	初出				
1936.8.1	「麵麴」第五巻第八号	ヴィジョンに就いての断片	初出				
1936.11.23							雨ニモマケズ詩碑建立
1936.12.20							『宮沢賢治研究』第五・六号
1938.2.							劇「ボランの広場」 「風の又三郎」（劇団東 童公演・築地小劇場）
1939.9.6	『宮沢賢治研究』十字屋書店 *	宮沢賢治の韻律			草野心平「『春と修羅』における雲」		『宮沢賢治研究』十字屋書店 *
1939.9.21			賢治七回忌に参加し、研究発表をする				賢治七回忌（日本青年館）
1939.10.某日～10.29			⑥東童公演「風の又三郎」を有楽座マチネエで見る				東童公演「風の又三郎」 有楽座マチネエ
1939.11.21							「イーハトーヴオ」第一号
1939.12.21	「イーハトーヴオ」第二号 *	風の又三郎の公演 ⑥	初出	童話「風の又三郎」			「雨ニモマケズ手帳」に書かれた詩「雨ニモマケズ」冒頭部分の写真を「昭和十三年十一月三日病臥のまゝ、記せし手帳筆跡」の説明を付し掲載
1940.1.10							『宮沢賢治全集』第一巻 十字屋書店

第一期 十字屋書店版全集完結（1944年）まで

1940.1.21							雨ニモマケズ詩碑拓本 縮小版（花巻賢治の 会）／「イーハトーヴ オ」第三号
1940.2.21							「イーハトーヴオ」第 四号 伊藤忠一「労農 詩論三講」掲載
1940.3.1	「セルバン」第一一〇 号	無色ノ人	初出				
1940.3.17							「宮沢賢治全集」第三 巻、第四巻 十字屋書 店
1940.3.21							「イーハトーヴオ」第 五号
1940.4.21							「イーハトーヴオ」第 六号 詩「月天子」掲 載
1940.5.21							「イーハトーヴオ」第 七号
1940.5.23				⑦宮沢賢治友の会研究 座談会に参加。朗読研 究を行い、永瀬清子は 文語詩「祭日〔一〕」 「祭日〔二〕」を朗読。	「春と修羅」序／詩 「春と修羅」「霜林幻想」 「岩手軽便鉄道の一月」 「悍馬」（「春と修羅 第 三集」）「倒れかかった 桶の間で」（「春と修羅 第四集」）「浮世絵」 「装景手記」／「悍馬」 （文語詩稿五十篇また は文語詩稿一百篇※） 「祭日〔一〕」（文語詩 稿一百篇※）「祭日 〔二〕」（文語詩未完稿 ※）童話集「注文の 多い料理店」童話「風 の又三郎」	第七回宮沢賢治友の会 （日本青年館内大和亭 食堂）	
1940.6.21							「イーハトーヴオ」第 八号に文語詩未完成作 品として「きみになら びて」（「雨ニモマケズ 手帳」）掲載
1940.6.27 ～1940.7.4							「築地小劇場で公演中 の劇団東童の「クスコ ープドリの伝記」を親 に上京」した宮沢清六 と会う（「イーハトー ヴオ」第一〇号）
1940.7.1	「女子文苑」第七巻第 七号（第七八号）	夏の愛誦詩（アンケ ー七号）	初出				詩「栗鼠と色鉛筆」 （「春と修羅」）「下背に 日の出をもつ山」に 関する童話風の構想 （「春と修羅」第二集※）

第一期 十字屋書店版全集完結（1944年）まで

宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）			宮 沢 賢 治 に 関 する 活 動 等	著作に引用または言及 した宮沢賢治の作品	著作に引用した文献	永 瀬 清 子 へ の 言 及 の ある 文 献	宮 沢 賢 治 研 究 史
年月日	書 誌 名	題 名					
1940.7.8		無色ノ人					「歷程」第一二号*
1940.8.20	『諸国の天女』河出書 房 *	梢 宮沢賢治に就いて ヴィジョンに就いての 断片					
1940.8.21					「各地ニュース 東京」 （「イーハトーヴォ」第 九号）に「『女子文苑』 七月号に永瀬清子氏夏 の愛誦詩と云ふ題のア ンケートに賢治の『栗 鼠と色鉛筆』掲載」の 記事掲載	「イーハトーヴォ」第 九号	
1940.9.21					「各地ニュース 東京」 （「イーハトーヴォ」第 一〇号）に詩集「諸国 の天女」紹介記事掲載	「イーハトーヴォ」第 一〇号	
1940.9.30						「宮沢賢治全集」第二 巻 十字屋書店	
1940.10.21						「イーハトーヴォ」第 一一号	
1940.11.21						「イーハトーヴォ」第 一二号	
1940.12.30						「宮沢賢治全集」第五 巻 十字屋書店	
1941.1.21						「イーハトーヴォ」第 一三号	
1941.4.20						宮沢賢治「グスコープ 下りの伝記」羽田書店 *	
1941.4.30						華訳日本詩歌選「雨ニ モマケズ」（文求堂）	
1941.12.21						宮沢賢治「銀河鉄道の 夜」新潮社 *	
1942.3.1	「蠟人形」第一三巻第 三号（愛国詩特集）	新刊詩書評 二つの美 しい物語の本『スザン ヌ物語』と『銀河鉄道 の夜』	初出	童話「銀河鉄道の夜」 「なめとこ山の熊」「雪 渡り」「茨海小学校」 「ツェねずみ」			
1942.3.10						「詩歌翼賛」第二集に 「雨ニモマケズ」収録 （大政翼賛会文化部編）	
1942.4.1						レコード「雨ニモマケ ズ」（ビクター）発売	
1943.5.5						日本青年団本部「青年 朗詠集」（「雨ニモマケ ズ」）	

第一期 十字屋書店版全集完結（1944年）まで

1943.10.30							『宮沢賢治全集』第六卷 十字屋書店
1943.11.20							斑目栄二『雨ニモマケズ』（伝記小説・富文館）
1944.2.10							山田岩三郎『近代名詩選集』千歳書房 *
1944.2.28							『宮沢賢治全集』別巻 十字屋書店
1944.9.20							谷川徹三講演『雨ニモマケズ』東京女子大学
1944.10.							雨ニモマケズ詩碑拓本縮小版再版
1945.6.20							谷川徹三『雨ニモマケズ』（日本双書・生活社）
1946.4.10	『星座の娘』目黒書店 *	梢					
1946.5.30							『農民芸術』第一集に『農民芸術概論』掲載 *
1946.6.10	『糸針抄』文学祭社 *	宮沢賢治に就いて					
1946.12.15							『農民芸術』第二集 * 小倉豊文「五輪峠より」掲載
1947.1.1	『昭和二一年版炬年刊詩集』炬書房	日々					
1947.4.30			『農民芸術』第三集で小倉豊文を知る。	関登久也「記録宮沢賢治（一）」	小倉豊文「アメリカ人のみた宮沢賢治」		『農民芸術』第三集 * 小倉豊文「アメリカ人のみた宮沢賢治」／関登久也「記録宮沢賢治（一）」掲載
1947.8.下旬			⑧小倉豊文と宮沢賢治について話し合う。				
1947.9.1							『農民芸術』第四集 * 小倉豊文「塔中秘事」掲載
1947.10.29		私の詩	本文末尾に記した年月日				
1947.11.1						小倉豊文「最近の宮沢賢治研究にちなみて」	『農民芸術』第五集 * 小倉豊文「最近の宮沢賢治研究にちなみて」／佐藤隆房「絵画への一考察」掲載
1948.1.1	『新詩人』第三巻第一号 *	歌人の病ひ	初出	童話「龍と詩人」			
1948.2.1	『美しい国』爐書房 *	日々					

第二期 筑摩書房版全集完結（1957年）まで

宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）			宮 沢 賢 治 に 関 する 活 動 等	著作に引用または言及 した宮沢賢治の作品	著作に引用した文献	永 瀬 清 子 へ の 言 及 の ある 文 献	宮 沢 賢 治 研 究 史
年月日	書 誌 名	題 名					
	「現代詩」第三卷第二号	アフォリズム 詩に就いてその他 短歌の笹舟	初出				
		アフォリズム 詩に就いてその他 定形律	初出	詩「下背に日の出をもつ山に関する童話風の構想」（「春と修羅」第二集※）／文語詩※「〔水と濃きなだれの風や〕」（文語詩稿五十篇）	「農民芸術」第五集		
1948.2.5							関登久也「純宮沢賢治素描」真日本社 * *
1948.2.11			永瀬清子宅で「小倉豊文、沼本昌平、植木克己の諸氏集合、関西賢治の会や、また賢治研究の諸問題について談合」（「宮沢賢治研究」第一号）				
1948.3.15	「農民芸術」第六集	私の詩 ①②	初出	詩集「春と修羅」「習作」／詩「雨ニモマケズ」（補遺詩編Ⅱ※）			「農民芸術」第六集
1948.3.30							「宮沢賢治研究」第一号 * *
1948.5.1	「新詩人」第三卷第五号	続 午前二時の手帖より（アフォリズム）にぎやかなる水上	初出	詩「北上山地の春」（「春と修羅 第二集」※）／詩「牧場地方の春の歌」（補遺詩編Ⅰ※）	※佐藤隆房「絵画への一考察」		
1948.6.20							佐藤勝治「宮沢賢治の肖像」十字屋書店
1948.6.27							植木克己「『雨ニモマケズ』、宮沢賢治の生涯」を「山陽中学生新聞」に執筆
1948.7.1							宮沢賢治「ふたこの星」大日本雄弁会講談社 * *
1948.8.15							「農民芸術」第七集 * *
1948.9.30							植木克己「宮沢賢治の生涯」園山中国印刷 * *
1948.10.30							「宮沢賢治研究」第二号／小倉豊文「宮沢賢治研究文獻目録―筆者別―」掲載

第二期 筑摩書房版全集完結（1957年）まで

1948.12.10							谷川徹三 講演「もろともにかがやく宇宙の微塵となりて」(岩手県長板村)
1949.1～			岡山宮沢賢治の会を赤磐郡瀬戸町で開催。				
1949.2.1							小田邦雄「賢治と食生活」(『現代詩』第四巻第二号) *
1949.4.10	「鯨」第五集	断片〔宮沢賢治がどうして菜食をとほしたのか〕	初出			小田邦雄「賢治と食生活」	
1949.5.1	「現代詩」第四巻第五号	詩に於ける現実に就いての断片 汝禦せよ 詩に於ける現実に就いての断片 抒情とは何か	初出		詩「無声慟哭」(『春と修羅』)		
			初出			小田邦雄「賢治と食生活」	
1949.7.25							「農民芸術」第八集*
1949.9.23							谷川徹三 講演「第四次元の芸術」(東京大学)
1949.10.1							「四次元」第一巻第一号 *
1949.11.1							「四次元」第一巻第二号 *
1950.2.1	「四次元」第二巻第一・二号	微塵の一粒 ―宮沢賢治さんにむかう私―	初出		評論「農民芸術概論」/童話「セロ弾きのゴーシュ」		
1950.3.1							「四次元」第二巻第三号 *
1950.7.10							「四次元」第二巻第六号 *
1950.7.30							日夏耿之介「明治大正新詩選(下)」創元社 *
1950.8.10							「四次元」第二巻第七号 *
1950.10.10	「四次元」第二巻第九号	宮沢賢治についてのアンケート ①	初出/詩集「春と修羅」を読んだ時期を「多分昭和七年ごろのこと」と回答している		詩集「春と修羅」		
1950.10.12							谷川徹三 講演「修羅のなみだ」(松本市蛾ヶ崎高等学校)
1950.11.3 ～11.7							「宮沢賢治展」広島市立浅野図書館(=現・広島市立中央図書館)

第二期 筑摩書房版全集完結(1957年)まで

宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）			宮 沢 賢 治 に 関 する 活 動 等	著作に引用または言及 した宮沢賢治の作品	著作に引用した文献	永 瀬 清 子 へ の 言 及 の ある 文 献	宮 沢 賢 治 研 究 史
年月日	書 誌 名	題 名					
1950.11.4							「宮沢賢治展」開催に つき「賢治の夕」を浅 野図書館ホールで行 う。内容は、詩の朗読、 画劇、音楽、プラネタ リウム試写、小倉豊文 による「講演と座談」
1951.1.10							「四次元」第三巻第一 号 豊田清史「宮沢賢 治展記録」掲載
1951.3.10						浅野見「賢治結縁」 （「四次元」第三巻第三 号）	
1951.8.15							草野心平編「日本恋愛 詩集」羽田書店*
1951.9.10	「四次元」第三巻第七 号 *	わが友 ―午前二時の 手帖より―	初出／永瀬清子の蔵書 は永瀬清子の執筆箇所 が切り取られている	詩「雨ニモマケズ」 （補遺詩編Ⅱ※） 「永訣の朝」（「春と修 羅」）			
1951.12.30							草野心平「宮沢賢治覚 書」創元社 *
1952.3.10							「四次元」第四巻第三 号 草下英明「宮沢賢 治と星（一）」掲載
1952.4.10							「四次元」第四巻第四 号 *
1952.6.10							「四次元」第四巻第五 号 草下英明「宮沢賢 治と星（二）」掲載
1952.7.10							「四次元」第四巻第六 号 草下英明「宮沢賢 治と星（三）」掲載
1952.8.10							「四次元」第四巻第七 号 草下英明「宮沢賢 治と星（四）」掲載
1952.8.15							小倉豊文「宮沢賢治の 手帳研究」創元社
1952.8.							三菱広島造船所文芸部 主催「宮沢賢治展」開 催。「宮沢賢治の手帳 研究」出版記念会開催。
1952.10.5							宮沢賢治「雨中謝辞」 創元社 *
1952.12.25	「女詩人の手帖」日本 文教出版 *	微塵の一粒 ―宮沢賢 治さんにむかう私―					
1953.4.10							「四次元」第五巻第四 号 *

第二期 筑摩書房版全集完結（1957年）まで

1953.5.10							「四次元」第五卷第五号*
1953.6.10							「昭和文学全集一四 宮沢賢治集」角川書店*
1953.9.10							「四次元」第五卷第九号*
1953.9.20							草下英明「宮沢賢治と星」甲文社
1953.9.30							宮沢賢治「無声慟哭・オホーツク挽歌」新潮社*／古谷綱武「宮沢賢治集 上巻」新潮文庫(1949.7.10)*
1953.10.10							佐藤春夫・吉田精一編「近代日本抒情詩集 四 中央公論社*」／「四次元」第五卷第一〇号*
1954.1.10							「四次元」第六卷第一号*
1954.10.30							高村光太郎編「昭和文学全集四七 昭和詩集」角川書店*
1955.1.10							「四次元」第七卷第一号*
1955.2.21	「イーハトーヴォ」第二期三号(通卷一六号)	雲の信号 三	初出	童話「セロ弾きのゴーシュ」「なめとこ山の熊」「雪渡り」「龍と詩人」			
1955.3.10							「四次元」第七卷第三号*
1955.4.10	「四次元」第七卷第四号	宮沢さんと私 ①②	初出	詩集「春と修羅」／詩「雨ニモマケズ」(補遺詩編Ⅱ※)／童話「猫の事務所」「セロ弾きのゴーシュ」	永瀬清子「ノート」 「宮沢氏についてまた」 「宮沢賢治の韻律」「ヴィジョンに就いての断片」 「風の又三郎の公演」 小倉豊文「宮沢賢治研究文献目録一筆者別一」 草野心平編「宮沢賢治研究」		
1955.6.20							中村稔「宮沢賢治」書肆ユリイカ
1955.11.10							「四次元」第七卷第一号*
1956.5.20							宮沢賢治「注文の多い料理店」角川文庫*
1956.6.10							「四次元」第八卷第五号*

第二期 筑摩書房版全集完結(1957年)まで

宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）			宮 沢 賢 治 に 関 する 活 動 等	著作に引用または言及 した宮沢賢治の作品	著作に引用した文献	永 瀬 清 子 へ の 言 及 の ある 文 献	宮 沢 賢 治 研 究 史
年月日	書 誌 名	題 名					
1956.8.1							「四次元」第八卷第七号 *
1956.10.10							「四次元」第八卷第九号 *
1956.11.10							「四次元」第八卷第一〇号 *
1956.12.20							「宮沢賢治全集」第六卷 筑摩書房 *
1957.1.10							「四次元」第九卷第一号 *
1957.4.10							「四次元」第九卷第四号 *
1957.5.1	「現代詩入門」第三巻 第五号 *	賢治の人と作品	初出	「春と修羅」序／詩「丘の幻惑」「栗鼠と色鉛筆」「原体剣舞連」「永訣の朝」（「春と修羅」）「雨ニモマケズ」（補遺詩編Ⅱ※）「ロマンツエロ」（文語詩草稿十九篇※）	草野心平「春と修羅」における雲		
1958.2.25							谷川徹三「雨ニモマケズ」—宮沢賢治の世界—「毎日宗教講座」第二巻 毎日新聞社
1958.3.10							「現代作家論全集」第七巻 五月書房（宮沢賢治 中村稔）
1958.8.15	草野心平編「宮沢賢治研究」筑摩書房	農民詩としての宮沢さんの作品	初出／永瀬清子の蔵書は（1981.2.28）参照	「農民芸術概論」／詩「習作」／詩「過労呪禁」（「善鬼呪禁」先駆形「春と修羅第二集」）詩「告別」（「春と修羅第二集」）「稲作挿話」（「あすこの田はねえ」先駆（発表）形「春と修羅第二集」）「野の師父」（「春と修羅第三集」）			
1958.10.10							横田正知「日本文学アルバム 宮沢賢治」筑摩書房 *
1958.12.13 ～12.14			某日、安田学園主催「宮沢賢治展」において、絵画「日輪と山」を見る。				安田学園主催「歌劇と宮沢賢治遺稿展・講演会」開催。宮沢家からの出品協力を得られる。行事は二日間に行われ、佐藤寛の挨拶に始まり、小倉豊文の講

第三期 筑摩書房版第二次全集完結（1969年）まで

							演「宮沢賢治の手帳について」、草野心平の講演「宮沢賢治と高村光太郎」、宮沢清六による「春と修羅」朗読などが行われる。
1958.12.15			⑨宮沢清六、小倉豊文が岡山へ永瀬清子来訪。				
1959.3.10							「宮沢賢治全集」第六巻 筑摩書房 *
1959.3.	「宮沢賢治全集月報」第九号 筑摩書房	自ら燃える人 ①②	初出	詩集「春と修羅」／詩「雨ニモマケス」(補遺詩編Ⅱ※)／評論「農民芸術概論」	永瀬清子「ノート」		
1959.4.25	「日本未来派」第八七号 *	糸針抄一(六)清六さん ③ 糸針抄一(六)「日輪と山」	初出 初出	絵画「日輪と山」			
1959.5.10							谷川徹三 講演「われはこれ塔建つもの」(平泉中尊寺・賢治詩碑建立記念講演)
1959.12.20	「黄薔薇」第四〇号 *	新しい野の月に * 編集後記 *	初出 初出	詩「月天子」(補遺詩編Ⅱ※)			
1960.8.1							「現代詩集3 宮沢賢治集」有信堂マステクス *
1960.10.10							金子光晴編「現代詩人全集(五)」角川文庫 * 「四次元」第一二巻第一号 *
1961.4.10							「四次元」第一三巻第四号 *
1961.6.10							「四次元」第一三巻第六号 *
1961.9.10							「四次元」第一三巻第九号 *
1962.11.15							中村稔「定本宮沢賢治」七曜社
1963.1.1							谷川徹三「われはこれ塔建つもの—宮沢賢治の世界—」(「世界」第二〇五号)
1963.2.3							篠田一士「『雨ニモマケス』論争に—人生論的感傷を排す—」(「朝日ジャーナル」)

第二期 筑摩書房版第一次全集完結(1969年)まで

宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）			宮 沢 賢 治 に 関 する 活 動 等	著作に引用または言及 した宮沢賢治の作品	著作に引用した文献	永 瀬 清 子 へ の 言 及 の ある 文 献	宮 沢 賢 治 研 究 史
年月日	書 誌 名	題 名					
1963.2.15							中島健蔵「『雨ニモマケズ』論争と私」（『朝日新聞』）
1963.3.30	『小倉先生記念録』小倉先生御退官謝恩事業会 *	〔小倉先生の御退官の時期が来ましたそうで〕 ①⑧	初出	詩集『春と修羅』	小倉豊文「アメリカ人の見た宮沢賢治」『宮沢賢治の手帳研究』／永瀬清子「ノート」		
1963.4.							中村稔「『雨ニモマケズ』再論」（『文芸』第二巻第四号）
1963.6.1							中村稔・鶴見俊輔・吉本隆明 座談会宮沢賢治の価値／生野幸吉「宮沢賢治論争の外で」（『現代詩手帖』第六巻第六号）
1963.6.							恩田逸夫「『雨ニモマケズ』論争の構造」（『近代文学懇話会会報』二二二号）
1963.7.10	『四次元』第一五巻第七号 *	宇宙詩人と云う意味	初出	童話「めくらぶどうと虹」「マリフロンと少女」「銀河鉄道の夜」「双子の星」			
1963.8.							奥田弘「『雨ニモマケズ』論争に思う」（『近代文学懇話会会報』二三号）
1963.9.10							佐藤泰正「宮沢賢治管見—『雨ニモマケズ』論争をめぐる—」（『近代日本文学とキリスト教・試論』創文社）
1963.10.1	『無限』第一四号 *	『その発火の美』	初出／特集佐藤惣之助				
1964.3.23							小倉豊文「『雨ニモマケズ』論争」（『中国新聞』）
1965.10.5	『女の新聞』第八八号	宇宙詩人 宮沢賢治のめざしたもの	初出	評論「農民芸術概論」／童話「めくらぶどうと虹」「銀河鉄道の夜」	草下英明「宮沢賢治と星」		
1966.5.							中村稔「定本（増補版）宮沢賢治」芳賀書店
1966.10.10							『四次元』第一八巻第一号 *
1966.11.10							『四次元』第一八巻第一号 *

第三期 筑摩書房版第二次全集完結（1969年）まで

1967.3.10							「四次元」第一九卷第三号 *
1967.4.10							「四次元」第一九卷第四号 *
1967.6.4		最初の「ノート」	本文末尾に記した年月日				
1967.7.18			ノートルダム清心女子大学公開国文学夏期講座(第一回)で宮沢賢治について講義を行う				
1967.9.10						小倉豊文「声聞録覚録(二一)」(「四次元」第一九卷第九号)	「四次元」第一九卷第九号 *
1967.10.10							「四次元」第一九卷第一〇号 *
1967.11.5							西脇順三郎他編「朗読の詩集」宝文館出版*
1967.11.10							「四次元」第一九卷第一一号 *
1968.1.10	「四次元」第二〇卷第一号 *	最初の「ノート」	⑨ 初出			小倉豊文「アメリカ人のみた宮沢賢治」/永瀬清子「ノート」「随筆 宮沢氏について」	
1968.4.25							境忠一「評伝・宮沢賢治」桜楓社 *
1969.4.5							「賢治研究」一 *
1969.4.25	『日本詩人全集』第三卷 昭和詩集(一) *	梢					
1969.5.30	『永瀬清子詩集』昭森社 *	梢 無色ノ人 日々					
1969.8.5							「賢治研究」二 *
1969.8.15							「宮沢賢治全集別巻 宮沢賢治研究」筑摩書房 *
1969.11.29							早稲田大学・文学碑と拓本の会「宮沢賢治/高村光太郎の碑」二女社 *
1969.12.10							「賢治研究」三 *
1970.4.1							「賢治研究」四 *
1970.8.1							「賢治研究」五 *
1970.8.10							谷川徹三 新装版「宮沢賢治の世界」法政大学出版部
1970.10.1							佐藤隆房『宮沢賢治』富山房(1942.9.8) *

第三期 筑摩書房版第二次全集完結(1969年)まで

宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）			宮 沢 賢 治 に 関 する 活 動 等	著作に引用または言及 した宮沢賢治の作品	著作に引用した文献	永瀬清子への 言及のある文献	宮 沢 賢 治 研 究 史
年月日	書 誌 名	題 名					
1970.12.1							「賢治研究」六 * 「校本宮沢賢治全集」 第一二巻（上）により、 初めて「雨ニモマケズ 手帳」の内容が公開さ れる。 *
1970.12.20							
1971.4.1	「日本未来派」第一三八号 *	日々の彩（十一）心貧しいもの	初出	評論「農民芸術概論」			
1971.4.10	『歳月の記—岡山文化人像—』山陽新聞社 *	詩と共に歩んだ人生 ①②		詩集「春と修羅」			
1971.4.15							「賢治研究」七 * 「賢治研究」八 * 「賢治研究」九 * 「四次元」号外 *
1971.8.5							
1971.12.4							
1972.3.10							
1972.4.15							中村稔「宮沢賢治」筑 摩書房／「賢治研究」 一〇 *
1972.8.5	「賢治研究」第一一号	「雨ニモマケズ」の発 見「モナミ」の賢治追 悼会 ①②	初出	詩集「春と修羅」私家 版「鏡をつるし」／詩と 「原体剣舞連」（「春と 修羅」）「岩手軽便鉄道 の一月」（「春と修羅 第二集」）「花園譜七 月」（「北上川は突気を 流しよ」改稿発表表形 「春と修羅 第二集」 ※）「雨ニモマケズ」 （補遺詩編Ⅱ※）／歌 曲「星めぐりの歌」			
1972.11.5	「試行」第三七号 *	短章集抄 日輪と山— 宮沢賢治のリアル—					
1972.11.30	文芸読本「宮沢賢治」	「雨ニモマケズ」の発 見「モナミ」の賢治追 悼会					
1972.12.2							「賢治研究」一二 * 「校本宮沢賢治全集」 第七巻 筑摩書房 * 「校本宮沢賢治全集」 第二巻 筑摩書房 *
1973.5.15							
1973.7.15							
1973.9.10	「試行」第三九号 *	短章集抄（三）スギナ の間作	初出	詩集「春と修羅」／詩 「習作」			
1973.9.15							「校本宮沢賢治全集」 第八巻 筑摩書房 * 「校本宮沢賢治全集」 第一巻 筑摩書房 *
1973.11.15							
1974.1.15							「校本宮沢賢治全集」 第九巻 筑摩書房 *

第四期 筑摩書房版第三次（校本）全集完結（1977年）まで

1974.3.15							『校本宮沢賢治全集』 第一〇巻 筑摩書房 *
1974.3.20	『試行』第四〇号 *	短章集抄 (四) 微少な ものへの味方	初出	童話「セロ弾きのゴー シュ」			
1974.4.1	『短章集』思潮社 *	日輪と山					
1974.6.15							『校本宮沢賢治全集』 第五巻 筑摩書房 *
1974.9.15							『校本宮沢賢治全集』 第一一巻 筑摩書房 * / 小海永二「旅の名 詩」花曜社 *
1974.10.10							佐藤勝治「宮沢賢治入門」 十字屋書店 (第一部に 「宮沢賢治の肖像」再録)
1974.12.20							『校本宮沢賢治全集』 第一三巻 筑摩書房 *
1975.2.15							中村稔「宮沢賢治」筑 摩書房 *
1975.2.25	『試行』第四二号 *	短章集抄 (六)「第三 芸術」	初出	詩「第三芸術」(「春と 修羅 第四集」)			
1975.6.30							『校本宮沢賢治全集』 第三巻 筑摩書房 *
1975.7.25							草下英明「宮沢賢治と 星」学芸書林 (甲文社 版[1953.9.20]を増補改 訂)
1975.10.10				⑩「永瀬清子詩画展」 (10.10~10.15) を上之 町画廊で開催中に、小 倉豊文が「雨ニモマケ ズ手帳」について尋ね る。			
1975.12.20							『校本宮沢賢治全集』 第一二巻 (上) 筑摩 書房 *
1976.7.30							『校本宮沢賢治全集』 第四巻 筑摩書房 *
1976.9.10	『試行』第四六号	短章集抄 (十) ヨクミ キ、シ ワカリ	初出	詩「雨ニモマケズ」 (補遺詩編Ⅱ※) / 童 話「クスコブドリの 伝記」			
1976.10.10							斉藤文一「宮沢賢治と その展開」国文社 *
1976.11.30							『校本宮沢賢治全集』 第六巻 筑摩書房 *
1977.2.1	『蝶のめいてい』短章 集一 思潮社 *	日輪と山					

第四期 筑摩書房版第二次 (校本) 全集完結 (1977年) まで

宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）			宮 沢 賢 治 に 関 する 活 動 等	著作に引用または言及 した宮沢賢治の作品	著作に引用した文献	永 瀬 清 子 へ の 言 及 の ある 文 献	宮 沢 賢 治 研 究 史
年月日	書 誌 名	題 名					
1977.2.1	『流れる髪』短章集二 思潮社 *	賢治思慕 a スギナ の問作 賢治思慕 b 微少な ものへの味方 賢治思慕 c ヨクミ キキシワカリ 「第三芸術」					
1977.9.1	「世界」第三八二号	渦巻の川 —わが詩作 の五十年— ①②	初出	詩集「春と修羅」／詩 「雨ニモマケズ」（補遺 詩編Ⅱ※）			
1977.9.10	「ユリイカ」第九巻第 一〇号	宮沢賢治友の会研究座 談会 ⑤	初出	「春と修羅」序／詩 「春と修羅」「霜林幻想」 「岩手軽便鉄道の一月」 「悍馬」（「春と修羅 第 三集」）「倒れかかつた 稲の間で」（「春と修羅 第四集」）「浮世絵」 「装景手記」／「悍馬」 （文語詩稿五十篇また は文語詩稿一百篇※） 「祭日（一）」（文語詩 稿一百篇※）「祭日 （二）」（文語詩未定稿 ※）／童話集「注文の 多い料理店」童話「風 の又三郎」			
1977.9.17		私の「ノート」につい て	本文末尾に記した年月 日				
1977.10.30	『校本宮沢賢治全集第 一四巻別巻』筑摩書房 *	ノート 私の「ノート」につい て	初出				
1978.2.20							『国文学』第二三巻第 二号（特集宮沢賢治 作品から作品へ、ジャン ルからジャンルへ） *
1978.12.5							小倉豊文『「雨ニモマ ケズ手帳」新考』東 京創元社 *
1979.5.10							谷川徹三『雨ニモマケ ズ』講談社学術文庫 *
1979.5.16 ～5.18			①花巻旅行				
1979.6.25	『永瀬清子詩集』思潮 社 *	無色ノ人					
1979.8.5	『女人随筆』第三七号 *	イーハトーブへの旅 宇宙意志の世界 ①	初出				

1979.8.5	「黄薔薇」第九四号* *	編集後記 ①	初出	詩「岩手軽便鉄道の一月」(「春と修羅 第三集」)				
1979.9.1	「母の友」第三一六号* *	賢治と光太郎の郷へ ①②	初出	詩集「春と修羅」／詩「雨ニモマケズ」(補遺詩編Ⅱ※)／歌曲「星めぐりの歌」	関登久也「記録宮沢賢治(一)」／「校本宮沢賢治全集第一四巻別巻」／永瀬清子「ノート」			
1979.10.1	「母の友」第三一七号* *	黒い小さい手帖の事 ①⑧⑨⑩	初出	詩「雨ニモマケズ」／児童話「北守將軍と三人兄弟の医者」	草野心平「宮沢賢治追悼」／谷川徹三「ある新聞紙」(「朝日新聞」)／小倉豊文「宮沢賢治の手帳研究」／「雨ニモマケズ手帳」(「新考」)／中村稔「宮沢賢治」／文圃堂版「宮沢賢治全集」全三巻			
1979.11.1	「母の友」第三一八号* *	イーハトーブへの旅 ①⑩	初出	児童話「注文の多い料理店」序文／詩「遠足許可」(「春と修羅 第二集」※)				
1980.4.19				⑫宮沢賢治生誕八十五年と賢治研究会三十周年の記念の会で講演をする。				新宿安田生命ホールで宮沢賢治生誕八十五年と宮沢賢治研究会三十周年記念会開催
1980.5.26								「女いまー ほとばしる。うたごころ。永瀬清子さん」(「毎日新聞」)
1980.6.10	「黄薔薇」第九七号* *	編集後記 ⑫	初出					
1980.6.19								小倉豊文「宮沢賢治声聞録覚録」文泉堂出版*
1980.9.6								「賢治研究」二五*
1980.11.10	「試行」第五号	短章集抄(十八)花巻行 ⑪	初出	詩集「春と修羅」／詩「春と修羅」(習作)／詩「遠足許可」(「北海道旅行日誌」)／「春と修羅 第二集」(※)／「雨ニモマケズ」(補遺詩編Ⅱ※)				
1980.11.15	「堀に薪を」思潮社* *	花巻行						
1981.2.15								「賢治研究」二六*
1981.2.28	草野心平編「宮沢賢治研究Ⅰ」筑摩書房(1958.8.13)* *	農民詩としての宮沢さんの作品						

第五期 筑摩書房版第三次(校本) 全集完結以後

宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）			宮 沢 賢 治 に 関 する 活 動 等	著作に引用または言及 した宮沢賢治の作品	著作に引用した文献	永 瀬 清 子 へ の 言 及 の ある 文 献	宮 沢 賢 治 研 究 史
年月日	書 誌 名	題 名					
1981.3.							栗原敦「宮沢政次郎書簡集 金沢大学暁烏文庫蔵 暁烏敏苑」(「金沢大学文学部論集文学科篇」別刷) *
1981.6.30							原子朗「宮沢賢治」角川書店 *
1981.8.20							佐藤勝治「『冬のスケッチ』研究」みちのく芸術社 *
1981.10.1	「研修紀要」第四四号 *	二人の老先生～高畑先生と小倉先生 ②	初出	詩「雨ニモマケズ」(補遺詩編Ⅱ※)	小倉豊文「アメリカ人の見た宮沢賢治」		
1981.10.4						「詩人の肖像 永瀬清子・平和の祈り 六宇宙の善意」(「朝日新聞」岡山版)	
1981.10.15	「鵬程」第一四号 *	短章 貫ぬく眼のバランス	初出				
1981.10.25							「賢治研究」二八 *
1981.11.25	「日本未来派」第一六四号 *	詩は肉体である	初出	詩「松の針」(「春と修羅」)			
1981.12.20							「新修宮沢賢治全集」第一卷 筑摩書房(1979.7.15) *
1981.12.31	「かく違った」編集工房ノア *	親分草野心平さん ① 宮沢清六さん 宮沢賢治について	「糸針抄一(六)清六さん」を再録	詩「永訣の朝」(「春と修羅」) / 童話「なめとこ山の熊」			
1982.2.10							板谷英紀「賢治博物誌」れんが書房新社(1979.7.25) *
1982.3.28							「賢治研究」二九 *
1982.3.30	「試行」五八号 *	短章集抄(二十一) 詩は何のために書くか	初出 後に「死にかけている妹」に改題	詩「松の針」(「春と修羅」)			
1982.7.1							「十代」第二巻第七号 *
1982.8.1	「続永瀬清子詩集」思潮社 * 「十代」第二巻第八号(第一八号)	宮沢賢治に就いて つきせぬ賢治へのおどろきーゴージュと小十郎一	初出	童話「セロ弾きのゴーシュ」「なめとこ山の熊」			「賢治研究」三〇 *
1982.9.1							「十代」第二巻第九号 *

第五期 筑摩書房版第三次(校本) 全集完結以後

1982.9.30	復刻版「四次元」第二卷一・二号	微塵の一粒				復刻版「四次元」国書刊行会
	復刻版「四次元」第三卷第七号	わが友 ―午前二時の手帖より―				
	復刻版「四次元」第七卷第四号	宮沢さんと私				
	復刻版「四次元」第一五卷第七号	宇宙詩人と云う意味				
	復刻版「四次元」第二〇卷第一〇号	最初の「ノート」				
1982.10.1						「十代」第二卷第一〇号 *
1982.10.25						佐藤成「教諭宮沢賢治と花巻農学校」 手県立花巻農業高等学校同窓会 *
1982.11.1						「十代」第二卷第一一〇号 *
1982.12.25						「賢治研究」三一 *
1983.1.1						「十代」第三卷第一号 *
1983.1.24	「私は地球」沖積舎	無色ノ人				
1983.1.31						佐藤泰平「宮沢賢治とレコード(一)」(「立教女学院短期大学紀要」第一四号) *
1983.2.1						「十代」第三卷第二号 *
1983.2.10						佐藤泰平「『セロ弾きのゴーシュ』私見」(宮沢賢治「二」有精堂出版) *
1983.4.1						「十代」第三卷第四号 *
1983.4.20						「賢治研究」三二 *
1983.6.1						「十代」第三卷第六号 *
1983.6.19 ～1983.12.4						「賢治の世界」83宮沢賢治講座 宮沢賢治講座準備会(6/19～12/4まで毎月開催) *
1983.7.1						「十代」第三卷第七号 *
1983.7.10	「星座」第三号 *	花巻へのわが短い旅―宮沢賢治と風土の性格― ①	初出	詩集「春と修羅」／詩「習作」「遠足許可」(「春と修羅 第二集」※)「第二芸術」(「春と修羅 第四集」)／「雨ニモマケズ」(補遺詩編Ⅱ※)	永瀬清子「微塵の一粒」	

第五期 筑摩書房版第三次(校本) 全集完結以後

宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）			宮 沢 賢 治 に 関 する 活 動 等	著作に引用または言及 した宮沢賢治の作品	著作に引用した文献	永瀬清子への 言及のある文献	宮 沢 賢 治 研 究 史
年月日	書 誌 名	題 名					
1983.7.20							「宮沢賢治」第三号と小倉豊文「『ド』と『デ』—「雨ニモマケズ」と「雨ニモマケズ手帳」掲載 *
1983.7.20～			某日、「宮沢賢治」第三号掲載の小倉豊文「『ド』と『デ』—「雨ニモマケズ」と「雨ニモマケズ手帳」」を読み、小倉豊文に手紙を出す。				
1983.8.1							「十代」第三卷第八号 *
1983.9.1							「十代」第三卷第九号 *
1983.10.1	南川周三編『詩の情況』思潮社 *	詩は肉体である					
1983.11.1							「十代」第三卷第一号 *
1983.12.15							栗谷川虹『宮沢賢治見者の文学』洋々社 *
1984.1.10	『彩りの雲』思潮社	死にかけている妹	「詩は何のために書くか」を改題				
1984.2.1							「十代」第四卷第二号 *
1984.3.31							ますむらひろし『雪渡り 十力の金剛石』朝日ソノラマ * 佐藤泰平『宮沢賢治とレコード(二)』(「立教女学院短期大学紀要」第一五号) *
1984.4.1							「宮沢賢治童話劇集・1 雁の童子」花巻賢治子供の会 * / 「十代」第四卷第五号 *
1984.4.10							宮沢賢治「ボラーノの広場」角川文庫 *
1984.5.20	「宮沢賢治」第四号 *	宮沢賢治のほとりで一わが五十年の歩み ①②⑤⑧	初出	詩「雨ニモマケズ」(補遺詩編Ⅱ※) / 「松の針」(「春と修羅」) / 詩「告別」(「春と修羅」第二集) / 童話「セロ弾きのゴーシュ」 / 「銀	小倉豊文「アメリカ人の見た宮沢賢治」 / 「宮沢賢治の手帳研究」 / 関登久也「宮沢賢治」 / 中村稔「宮沢賢治」	小倉豊文「雨ニモマケズ」についての補稿	「宮沢賢治」第四号小倉豊文「『雨ニモマケズ』」についての補稿掲載

第五期
筑摩書房版第三次(校本)全集完結以後

				河鉄道の夜」「なめと こ山の熊」／〔大都郊 外ノ〕(補遺詩編Ⅱ ※)／評論「農民芸術 概論」			
1984.6.1							「十代」第四卷第六号 *
1984.9.1							「十代」第四卷第九号 *
1985.1.1							「十代」第五卷第一号 *
1985.3.25							佐藤泰平「セロを弾く 賢治と嘉藤治」洋々社 *
1985.4.20							沼田純子「宮沢賢治作 品集1」和泉書院 * *
1985.7							「イーハトーブ短信」 第三号 * *
1986.3.1							栗山修平「近代現代の 詩」青柳堂 * 「十 代」第六卷第三号 * *
1986.3.30							沼田純子「宮沢賢治作 品集2」和泉書院 * *
1986.4.1							「十代」第六卷第四号 *
1986.4							「イーハトーブ短信」 第四号 * *
1986.5.1							「十代」第六卷第五号 *
1986.5.27							『宮沢賢治全集』第六 巻 ちくま文庫 * *
1986.6.15				⑬木澤豊が主催する宮 沢賢治を読み解く会 「天気輪」の会参加。 第一回目は「雨ニモマ ケズ手紙」をテーマに、 岡山駅西口「未完成」 にて開催。			
1986.7.1							「十代」第六卷第七号 *
1986.8.1							「十代」第六卷第八号 *
1986.9.1							「十代」第六卷第九号 *
1986.11.1							「十代」第六卷第一一 号 * *
1986.12.1							「十代」第六卷第一二 号 * *
1987.1.1							「十代」第七卷第一号 *

第五期 筑摩書房版第三次(校本) 全集完結以後

宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）			宮 沢 賢 治 に 関 する 活 動 等	著作に引用または言及 した宮沢賢治の作品	著作に引用した文献	永 瀬 清 子 へ の 言 及 の ある 文 献	宮 沢 賢 治 研 究 史
年月日	書 誌 名	題 名					
1987.2.25							「イーハトーブ短信」 第六号 *
1987.3.1							「十代」第七卷第三号 *
1987.3.20							沼田純子「宮沢賢治作 品集3」和泉書院 *
1987.4.1							「十代」第七卷第四号 *
1987.6.1							「十代」第七卷第六号 *
1987.6.15							「新修宮沢賢治全集」 第九卷 筑摩書房 (1979.7.15) *
1987.7.1							「十代」第七卷第七号 *
1987.8.1							「賢治文学のよろこび」 第一集 *
1987.9.15							「新修宮沢賢治全集」 第十一卷 筑摩書房 (1979.7.15) *
1987.10.1	復刻版「宮沢賢治追悼」 国書刊行会	宮沢賢治さんの空気					小倉豊文「宮沢賢治初 期研究資料集成」国書 刊行会／「十代」第七 巻第一〇号 *
	復刻版「宮沢賢治研究」 第一号	宮沢賢治の韻律					
	復刻版「イーハトーヴ オ」第二号	風の又三郎の公演					
	復刻版「農民芸術」第 六集	私の詩					
1987.11.1						「十代」第七巻第一一 号 *	
1987.12.1						「十代」第七巻第一二 号 *	
1988.1.1						「十代」第八巻第一号 *	
1988.1.20	「黄薔薇」第一二〇号 *	心辺と身辺（続）いじ 悪その他	初出	童話「猫の事務所」 「蜘蛛となめくちと狸」			
1988.2.1							「宮沢賢治全集」第五 巻 ちくま文庫 (1986.3.25) ＊／「十 代」第八巻第二号＊
1988.3.1							「十代」第八巻第三号 *
1988.6.1							「十代」第八巻第六号 *
1988.7.1							「十代」第八巻第七号 *

第五期 筑摩書房版第三次（校本）全集完結以後

1988.7.10							『新修宮沢賢治全集』第七卷 筑摩書房 (1980.4.15) * / 『新修宮沢賢治全集』第一六卷 筑摩書房 (1980.8.30) *
1988.8.1							『十代』第八卷第八号 *
1988.9.1							『十代』第八卷第九号 *
1988.9.21	「大阪毎日新聞」	「すぎ去ればすべてなつかしい日々 三八 宮沢文学との出会い (一)」 ①	初出	詩集「春と修羅」			
1988.9.28	「大阪毎日新聞」	「すぎ去ればすべてなつかしい日々 三九 宮沢文学との出会い (二)」 ②	初出				
1988.9.30							内田朝雄「続・私の宮沢賢治」農山漁村文化協会 *
1988.10.1							『十代』第八卷第一〇号 *
1988.10.5	「大阪毎日新聞」	「すぎ去ればすべてなつかしい日々 四〇 宮沢文学との出会い (三)」 ②	初出	『〔宮沢賢治全集抜粋鏡をつるし〕〔A〕※ / 詩「雨ニモマケズ」(補遺詩編Ⅱ※)「岩手軽便鉄道の一月」(「春と修羅 第二集」※)「花鳥図譜七月」(「北上川は焚気を流し」改稿発表形「春と修羅 第二集」※) / 歌曲「星めぐりの歌」			宮沢賢治『銀河鉄道の夜』講談社 (1982.12.15) *
1988.10.10							『近代詩現代詩必携別冊国文学』No.35 *
1988.10.12	「大阪毎日新聞」	「すぎ去ればすべてなつかしい日々 四一 宮沢文学との出会い (四)」 ⑧	初出		小倉豊文「宮沢賢治の手帳研究」		
1988.11.1							『十代』第八卷第一一号 *
1988.11.20							『新修宮沢賢治全集』第二卷 筑摩書房 (1979.6.15) * / 『新修宮沢賢治全集』第一〇卷 筑摩書房 (1979.9.15) * / 『新修宮沢賢治全集』第一二卷 筑摩書房 (1980.1.15) * / 『新

第五期 筑摩書房版第三次(校本) 全集完結以後

							修宮沢賢治全集』第一 四巻 筑摩書房 (1980.5.15) *
1988.11.25	「黄色い潜水艦」第一 〇号 *	森の中の家—かく逢っ た— ⑬	初出				
1988.11.30	「大阪毎日新聞」	「すぎ去ればすべてな つかしい日々 四八 桜を貰う」 ⑪	初出		小倉豊文『「雨ニモマ ケズ手帳」新考』		
1989.1.1							「十代」第九巻第一号 *
1989.2.1							「十代」第九巻第二号 *
1989.2.25							「新修宮沢賢治全集」 第一巻 筑摩書房 (1979.10.15) * / 「新 修宮沢賢治全集」第三 巻 筑摩書房 (1979.8.15) * / 「新 修宮沢賢治全集」第四 巻 筑摩書房 (1980.6. 15) * / 「新修宮沢賢 治全集」第五巻 筑 摩書房 (1980.11.30) *
1989.3.1							「十代」第九巻第三号 *
1989.4.1							「十代」第九巻第四号 *
1989.5.1	「ならのきステーション」第一号 *	森の中の家—かく逢っ た—	「黄色い潜水艦」第一 〇号より転載				「十代」第九巻第五号 *
1989.5.20	「根の花通信」第六号 *	初発的にふれおどろい たのは—いろいろの因 縁により— ①②	初出	詩集「春と修羅」／詩選 「雨ニモマケズ」(補遺 詩編Ⅱ※)	佐藤泰平※「宮沢賢治 とレコード(一)」※ 「宮沢賢治とレコード (二)」※「セロを弾く 賢治と嘉藤治」		
1989.5.30							「弘前・宮沢賢治研究 会誌」第六号 別刷*
1989.6.1							「十代」第九巻第六号 *
1989.6.30							「新修宮沢賢治全集」 第五巻 筑摩書房 (1979.12.15) *
1989.6							宮沢賢治記念会「花の ファンタジー」宮沢賢 治記念会 *
1989.8.1							「十代」第九巻第八号 *
1989.8.30							「新修宮沢賢治全集」 第八巻 筑摩書房 (1979.5.15) * / 「新

第五期 筑摩書房版第三次(校本) 全集完結以後

宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）			宮 沢 賢 治 に 関 する 活 動 等	著作に引用または言及 した宮沢賢治の作品	著作に引用した文献	永 瀬 清 子 へ の 言 及 の ある 文 献	宮 沢 賢 治 研 究 史
年月日	書 誌 名	題 名					
							修宮沢賢治全集」第一 三巻 筑摩書房（1980. 3.15）＊／「新修宮沢 賢治全集」別巻 筑摩 書房（1980.12.20）＊
1989.10.1							「十代」第九巻第一〇 号 ＊
1989.11.1							「十代」第九巻第一一 号 ＊
1989.11.10							「宮沢賢治」第九号 小倉豊文「宮沢賢治の 愛と性」掲載
1989.12.25							吉本隆明「宮沢賢治」 筑摩書房（1989.7.30） ＊
1990.1.10							「イーハトーブ短信」 第一二号 ＊
1990.2.1	「永瀬清子詩集」思潮 社 ＊	無色ノ人 微少なもののへの味方					「十代」第一〇巻第二 号 ＊
1990.3.1							「十代」第一〇巻第三 号 ＊
1990.3.20	「女人随筆」第六三号 ＊	とりとめもなくー私の 雑記帳ー プラス・マ イナス	初出	詩「雨ニモマケズ」 （補遺詩編Ⅱ※）			
1990.3.25							工藤哲夫「賢治と維摩 経」（研究紀要）第三 号 京都女子大学宗 教・文化研究所 ＊
1990.5.1							「十代」第一〇巻第五 号 ＊
1990.6.1							「十代」第一〇巻第六 号 ＊
1990.6.7							谷川俊太郎・大岡信編 「美しい日本の詩」岩 波書店 ＊
1990.6.15	「すぎ去ればすべてな つかしい日々」福武書 店 ＊	宮沢文学との出会い					
1990.6.25	統橋達雄編「宮沢賢治 研究資料集成」第一巻 日本図書センター	ノート 宮沢賢治さんの空気 宮沢賢治の韻律				統橋達雄「宮沢賢治研 究史ー受容と評価の変 遷(1)」(「宮沢賢治研究 資料集成」別巻Ⅰ 日本図書センター)	統橋達雄編「宮沢賢治 研究資料集成」第一巻 ～第一〇巻・別巻Ⅰ 日本図書センター
	統橋達雄編「宮沢賢治 研究資料集成」第二巻 日本図書センター	風の又三郎の公演					
	統橋達雄編「宮沢賢治 研究資料集成」第五巻 日本図書センター	私の詩					

第五期
筑摩書房版第三次（校本）全集完結以後

	続橋達雄編『宮沢賢治研究資料集成』第七巻 日本図書センター	微塵の一粒 宮沢賢治についてのアンケート 雲の信号 宮沢さんと私						
1990.7.1								「十代」第一〇巻第七号 *
1990.7.30								「賢治研究」五二 *
1990.9.20						木澤豊「第一回・宮沢賢治友の会 新宿・モナミ記念写真のこと」 〔「黄蔷薇」第一二七号〕		
1990.10.1								「十代」第一〇巻第一〇号 *
1990.10.25	「海鳴り」第七号 *	宮沢賢治のほとりで「続「かく逢った」」「雨ニモマケズ」を貰った一						
1990.11.1								「十代」第一〇巻第一一号 *
1990.11.15								「賢治研究」五三 *
1990.12.1								「十代」第一〇巻第一二号 *
1991.1.1								「十代」第一一卷第一号 *
1991.1.15	「黄蔷薇」第一二八号 *	日本青年館での宮沢賢治の会 ⑤ 心辺と身辺(続) 愛することほど	初出					
1991.2.1								「十代」第一一卷第二号 *
1991.2.19	「中国新聞」	たどって来た遠い詩の道 モナミのこと 六 ①	初出		詩「雨ニモマケズ」(補遺詩編Ⅱ※) / 詩「若手軽便鉄道の一月」(「春と修羅 第二集」)			
1991.2.28								「賢治研究」五四 *
1991.3.1								「十代」第一一卷第三号 *
1991.3.5	「中国新聞」	たどって来た遠い詩の道 何がよかったか?	初出		詩「雨ニモマケズ」(補遺詩編Ⅱ※)			
1991.3.25								工藤哲夫「寒熱風雨一「雨ニモマケズ」の典拠一」(「研究紀要」第四号 京都女子大学宗教・文化研究所) *
1991.4.1								「十代」第一一卷第四号 *
1991.4.21	「黄蔷薇」第一二九号 *	心辺と身辺(続) 手紙のいろいろ A 賢治のことを	初出					

第五期 筑摩書房版第三次(校本) 全集完結以後

宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）			宮 沢 賢 治 に 関 する 活 動 等	著作に引用または言及 した宮沢賢治の作品	著作に引用した文献	永 瀬 清 子 へ の 言 及 の ある 文 献	宮 沢 賢 治 研 究 史
年月日	書 誌 名	題 名					
1991.5.1							「十代」第一一巻第五号 *
1991.6.1							「十代」第一一巻第六号 *
1991.7.1							「イーハトーブ短信」第一五号 * / 「十代」第一一巻第七号 *
1991.7.18							「賢治研究」五五 *
1991.7.25							入澤康夫「宮沢賢治プリオシン海岸からの報告」筑摩書房 *
1991.8.1							「十代」第一一巻第八号 *
1991.8.20	藤田えり子「女の新聞復刻版」 *	宇宙詩人 宮沢賢治のめざしたもの					東光敬「宮沢賢治の生涯と作品」百華苑(1949.4.15刊を復刊) *
1991.11.1							「十代」第一一巻第一号 *
1991.12.1							「十代」第一一巻第二号 *
1991.12.20							「イーハトーブ短信」第一六号 *
1992.1.1							「十代」第一二巻第一号 *
1992.2.1							西田良子「宮沢賢治を読む」創元社 * / 「十代」第一二巻第二号 *
1992.2.25	続橋達雄編「宮沢賢治研究資料集成」第一二巻 日本図書センター 続橋達雄編「宮沢賢治研究資料集成」第一四巻 日本図書センター	農民詩としての宮沢さんの作品 自ら燃える人					続橋達雄編「宮沢賢治研究資料集成」第一二巻～第一四巻・別巻 日本図書センター
1992.3.1							「十代」第一二巻第三号 *
1992.4.1							「十代」第一二巻第四号 *
1992.4.20							現代詩研究会「日本の詩一近代から現代へ一」桜楓社 *
1992.6.1							「十代」第一二巻第六号 *
1992.7.1							「十代」第一二巻第七号 *

第五期 筑摩書房版第三次（校本）全集完結以後

1992.7.10							桑原啓善「宮沢賢治の 霊の世界」土曜美術社 出版販売 * *
1992.7.15							「賢治研究」五八* *
1992.8.1							照井謙二郎「合本イー ハトーブ短信」* / * 「十代」第一二巻第八 号 * *
1992.9.1							「十代」第一二巻第九 号 * *
1992.10.1							「十代」第一二巻第一 〇号 * *
1992.11.1							「十代」第一二巻第一 一号 * *
1992.12.1							「十代」第一二巻第一 二号 * *
1992.12.30							「賢治研究」五九* *
1993.1.1							「十代」第一三巻第一 号 * *
1993.2.1							「十代」第一三巻第二 号 * *
1993.2.19							「弘前・宮沢賢治研究 会誌」第八号 * *
1993.3.1							「十代」第一三巻第三 号 * *
1993.3.10	「つめくさの信号」第 一五号 *	あの方の父上は 一宮 沢賢治をしのび—	初出				
1993.3.16							中川良孝「宮沢賢治絵 童話集 四 虔十公園 林」くもん出版 * *
1993.4.1							「十代」第一三巻第四 号 * *
1993.4.15							原子修「宮沢賢治論 銀河のいざない—」土 曜美術社出版販売 * *
1993.5.30							「賢治研究」六〇* *
1993.6.1							「十代」第一三巻第六 号 * *
1993.7.1							「十代」第一三巻第七 号 * *
1993.7.20							「イーハトーブ短信」 第一九号 * *
1993.8.1							「十代」第一三巻第八 号 * *
1993.9.1							「十代」第一三巻第九 号 * *
1993.9.15							「女人随筆」第七二号 * *
1993.9.21							宮沢賢治没後六十周年 *
1993.9.30							「賢治研究」六一* *

第五期 筑摩書房版第三次(校本) 全集完結以後

宮沢賢治に関する著作（一部言及を含む）			宮 沢 賢 治 に 関 する 活 動 等	著作に引用または言及 した宮沢賢治の作品	著作に引用した文献	永瀬清子への 言及のある文献	宮 沢 賢 治 研 究 史
年月日	書 誌 名	題 名					
1993.10.1							「十代」第一三巻第一〇号 *
1993.10.2	「毎日新聞」岡山版	日々のつぶやき「雨ニモマケズ」の発見①	初出	詩集「春と修羅」／詩「雨ニモマケズ」（補遺詩編Ⅱ※）			
1993.10.16	「毎日新聞」岡山版	日々のつぶやき モナミの会の一晩 ①	初出	「〔宮沢賢治全集抜粋鏡をつるし〕」〔A〕※／歌曲「星めぐりの歌」			
1993.10.29	「宮沢賢治絵童話集第一四巻月報一四」くもん出版 *	「雨ニモマケズ手帳」の発見—モナミの会の思い出— ①②⑩	初出	詩集「春と修羅」／詩「雨ニモマケズ」（補遺詩編Ⅱ※）			中川良孝「宮沢賢治絵童話集一四 宮沢賢治賢治詩画館」くもん出版 *／中川良孝「宮沢賢治絵童話集一五 イーハトーブプロマン」くもん出版 *
1993.10.30	「毎日新聞」岡山版	日々のつぶやき 花巻の人	初出	童話「風の又三郎」			
1993.11.1							「十代」第一三巻第一一号 *
1993.12.1							「十代」第一三巻第一二号 *
1993.12.30							「賢治研究」六二 *
1994.1.1							「十代」第一四巻第一号 *
1994.2.1							「十代」第一四巻第二号 *
1994.2.20							「イーハトーブ短信」第二〇号 *
1994.3.1							「十代」第一四巻第三号 *
1994.4.1	「ユリイカ」第二六巻第四号 *	ノート 「麴麴」のころ ①②⑩ *	初出	詩集「春と修羅」	小倉豊文「宮沢賢治の手帳研究」		
1994.5.1							「十代」第一四巻第五号 *
1994.6.1							「十代」第一四巻第六号 *
1994.9.20	「黄薔薇」第一四〇号 *	心辺と身辺（続）子午線のもとに	初出	「雨ニモマケズ手帳」	永瀬清子「宮沢賢治絵童話集第一四巻月報一四」		
1994.9.30							「賢治研究」六四 *
1995.2.17	永瀬清子呼吸不全につき八九歳で永眠						
1995.4.6	「春になればうぐいすと同じに」思潮社	あの方の父上は—いちばん下っばの弟子のことは					